


<p>第174回 都市懇サロン レポート</p>	<p style="text-align: center;">「葛城地区のまちづくり」 —市民協働のまちづくりへの挑戦—</p>		
<p>講師</p>	<p>一般財団法人 つくば都市交通 センター 理事長 伊藤節治氏</p>	<p>開催日</p>	<p>平成25年 9月19日(木) 18:00~20:00</p>
<p>講師 プロフィール</p>	<p>1974年 京都大学工学部土木工学科卒業 同年 日本住宅公団入社 2008年 (独)都市再生機構 埼玉地域支社長 2010年 (一財)つくば都市交通センター 理事長</p>		
<p>お話の概要</p>	<p><筑波研究学園葛城地区において実践中の基盤整備後のまちづくりについて具体的活動の内容を紹介頂いた></p> <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能なまちづくりをめざし、「まちづくりビジョン」を明確にして共有化し「市民協働」のまちづくりをおこなっている。 ●市長と財団の連名による「まち育てアンケート」では、25%という高い回答を得た。また、まちづくり活動へのモニター応募は130名。そのうち約30名が現在中心メンバーとなって活動している。 ●5回の勉強会（地域資源の情報収集・共有化、アイデアの提案、まち歩き、ビジョン案・テーマ設定など）を経て葛城まちづくりビジョンがスタート。 ●ビジョンは、コアビジョン（どんな「まち」をつくるのか）、まちづくりの目標（1.市民協働 2.健康的なライフスタイルの実現 3.環境配慮への取り組み 4.歴史文化・地域資源の評価、活用 5.景観の向上 6.まちづくりビジョンの共有化）、目標達成のための計画（葛城3原則）、目標達成の仕組み（1.活動団体の誕生 2.活動団体の自立 3.まちづくりプラットフォーム 4.活動資金）からなる。 ●地域資源を三つの視点（みどり資源、駅前センター、歴史文化・地域資産）にわけ、それぞれ、目標をつくり、シンボルプロジェクトをたちあげ推進中。将来計画と実現シナリオを定め、活動をより明確なものとしている。 ●中間支援組織（現在は財団が担っている）が必要。 		
<p>意見交換の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●市民協働は、スタートは行政であっても地元主導にならないと続かない。 ●リーダー選びが重要。葛城では、勉強会、ワークショップ、まち歩き、飲み会などをおして慎重に見極めていった。（バランス感覚がよく、見識がある人がよい） ●葛城ではうまくいったが、他の地域でうまくいくとは限らない。課題は地域ごとに異なるものであり、プロトタイプにはならないが、流れや方法はモデルとなる。 ●現在の参加者はリタイヤ組、子育ての終わった主婦、高齢者などであり、今後は若い人をどう取り込んでいくのが課題である。団塊の世代もうまく使えば大きな力になる。メンバーの新陳代謝をはかるしくみをつくりたい。 ●オープンカフェなど公共空間の活用では、受け皿となる組織が必要。 ●現在は財団の持ち出し（公益目的事業費）とボランティアで行われているが、資金調達が課題。 		
<p>記録者の ひとこと</p>	<p>市民協働は順調ではないことも多い中で、葛城地区の今後がとても楽しみです。 ≪都市懇サロン運営部会 委員 飯田のり子≫</p>		